

「物性研究の将来」

— 物性研短期研究会に出席して —

1980年12月4日～6日の3日間、物性研において短期研究会「物性研究の将来」が開かれた。この研究会は、物性小委員会が提案し、物性研究所の「将来計画」を中心にして物性研究の将来に関しその問題点を検討するために開催されたものである。研究会報告は通常の短期研究会の場合と同じように「物性研だより」に掲載されるが、研究会の性質上いろいろな立場からいろいろな意見・感想が述べられることが、今後の議論のためにも重要であると思われる。

本誌編集部はこのように考えて、研究会に出席された二人の方にその執筆をお願いした。

(物性研究編集部)

研究会プログラム

I. 超低温 (座長・伊達宗行)

物性研における超低温研究

大野和郎・永野 弘

生嶋 明・石本秀彦

各地における超低温研究の現状と物性研に対する要望

信貴豊一郎 (阪市大理) ・大塚泰一郎 (東北大理)

益田義賀 (名大理) ・小林俊一 (東大理)

II. 超強磁場 (座長・佐々木亘)

物性研における超強磁場研究

三浦 登

各地における超強磁場研究の現状と物性研に対する要望

伊達宗行 (阪大理) ・中川康昭 (東北大金研)

III. 極限レーザー (座長・達崎 達)

物性研におけるレーザー研究

塩谷繁雄・矢島達夫

各地におけるレーザー研究の現状と物性研に対する要望

宅間 宏 (電通大) ・櫛田孝司 (阪大理)

Ⅳ. 物性試料作成 (座長・長谷田泰一郎)

難育成結晶の単結晶作成

化学者の立場から

物質探索

河合七雄 (阪大産研)

井口洋夫 (分子研)

小林浩一 (物性研)